

1 岡山操車場跡地整備基本構想

(1) 全体構想（コンセプト）

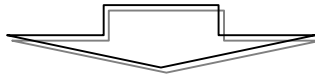
新しい岡山の魅力と活力あるまちづくりを目指し、操車場跡地全体が「庭園都市」のシンボルとなる緑豊かな空間となり、市民のみならず、広域からも多くの人々が訪れ、交流できる賑わい空間づくりを進める。

また、緑豊かな空間の中に、人々の安全・安心な暮らしを支える、健康・医療・福祉系都市機能やサービスを備えた環境づくりを進める。

そして、こうしたまちづくりを進めるにあたっては、市民や事業者、行政など様々な人々が関わり協働して育てていくことで、その魅力や機能を、将来にわたって維持・向上させることができる。

このような考えに基づき、以下のコンセプトで岡山操車場跡地全体の整備を進めていく。

『人々が関わることで育まれる都市の森』



■岡山操車場跡地の開発コンセプト「都市の森」

「人々が関わることで育まれる都市の森」とは

緑豊かな空間の中で環境づくり・にぎわいづくり・コミュニティ
づくりに、人々が継続的に関わりながら創造するもの

⇒緑で囲まれた空間の中に、健康・医療・福祉系を中心とした都市機能を配置し、中央部には「緑」の拠点となる都市公園を配置し、跡地全体が「都市の森」となるものと考えています。

(2) 操車場跡地全体の方針

①市民のシンボルとなる水と緑の庭園都市を創造

- ・庭園都市のシンボルとなり、市民が関わり続けながら創り上げていく環境先進都市の拠点となる森づくりを目指す。
- ・積極的な植樹により、緑のボリュームアップを図り、低炭素社会に向けた取り組みを実現していく。

②岡山市の特長と資産を活かしたテーマを持った拠点づくり

- テーマ1：新しく開設される市民病院との連携を核とした「健康」をテーマとした展開
- テーマ2：「健康」と「食」に関するイベントや市（いち）の開催
- テーマ3：若者たちをターゲットにしたエンターテインメント性のあるイベントの展開

③市民との協働による空間・仕組みの創出

- ・市民が積極的に関わりながら都市の森となる各拠点の空間を創出していくことを目指す。
- ・広く地域の福祉・安全安心・生活を支えるエリアマネジメントの創出を目指す。



■市民のシンボルとなる水と緑の庭園都市を創造

都市の環境を支え、市民が誇りと愛着を持つ庭園都市・岡山のシンボルとなる「森」

⇒人々の生活環境に潤いと安らぎを与え、市民の心に留まり、愛されるランドマークとしての緑豊かな場所。

■岡山市の特長と資産を活かした各種機能・サービスの提供

社会サービスという恵を与える「森」

⇒様々な恵みを与える森のように、訪れる人々や地域に「健康・医療・福祉」「交流・防災」「生活」といった視点のサービスを提供し市の都市格の向上に寄与する機能が集積する場所。

■市民との協働による空間・仕組みの創出

人々が育み、活動の場となる「森」

⇒人々の営みの中で維持されていく里山や森のように、跡地全体のまちづくりに多くの人々が関わり、育て、そして、活動の場としても魅力ある空間が受け継がれていく場所。

(3) ゾーニング

跡地整備にあたっては、「総合福祉ゾーン」「交流・防災拠点ゾーン」「生活支援ゾーン」の3つのゾーンに区分し、さらにその中をいくつかのエリアに区分して整備を進めていく。

① 総合福祉ゾーン【健康の森】

J R北長瀬駅を中心とした区域で、新しく開設される市民病院（以下、「新市民病院」という。）の立地を活かし、民間活力も活用した健康・医療・福祉系都市機能の立地を促進し、広く市民に貢献できるサービスを展開していく。

(エリア)

- 健康・医療・福祉の庭
- 健康増進の庭

② 交流・防災拠点ゾーン【市民交流の森】

跡地のほぼ中央部分で、緑に包まれた空間の中で、軽スポーツやレクリエーションなどを楽しみ、心身ともに健康増進を図る。

また、広域からのアクセス性に優れた立地や岡山の特長を活かしながら「健康」や「食」に関するイベントや市（いち）の開催、さらに、若者達をターゲットにしたエンターテインメント性のあるイベント等を開催し、にぎわいの創出を図る。

そして、大規模災害時には、広域避難地や救援・復旧の活動拠点、救援物資の受け入れなどが可能な防災拠点の機能を果たす。

(エリア)

- にぎわいの庭
- おかやまの森
- おかやまの広場

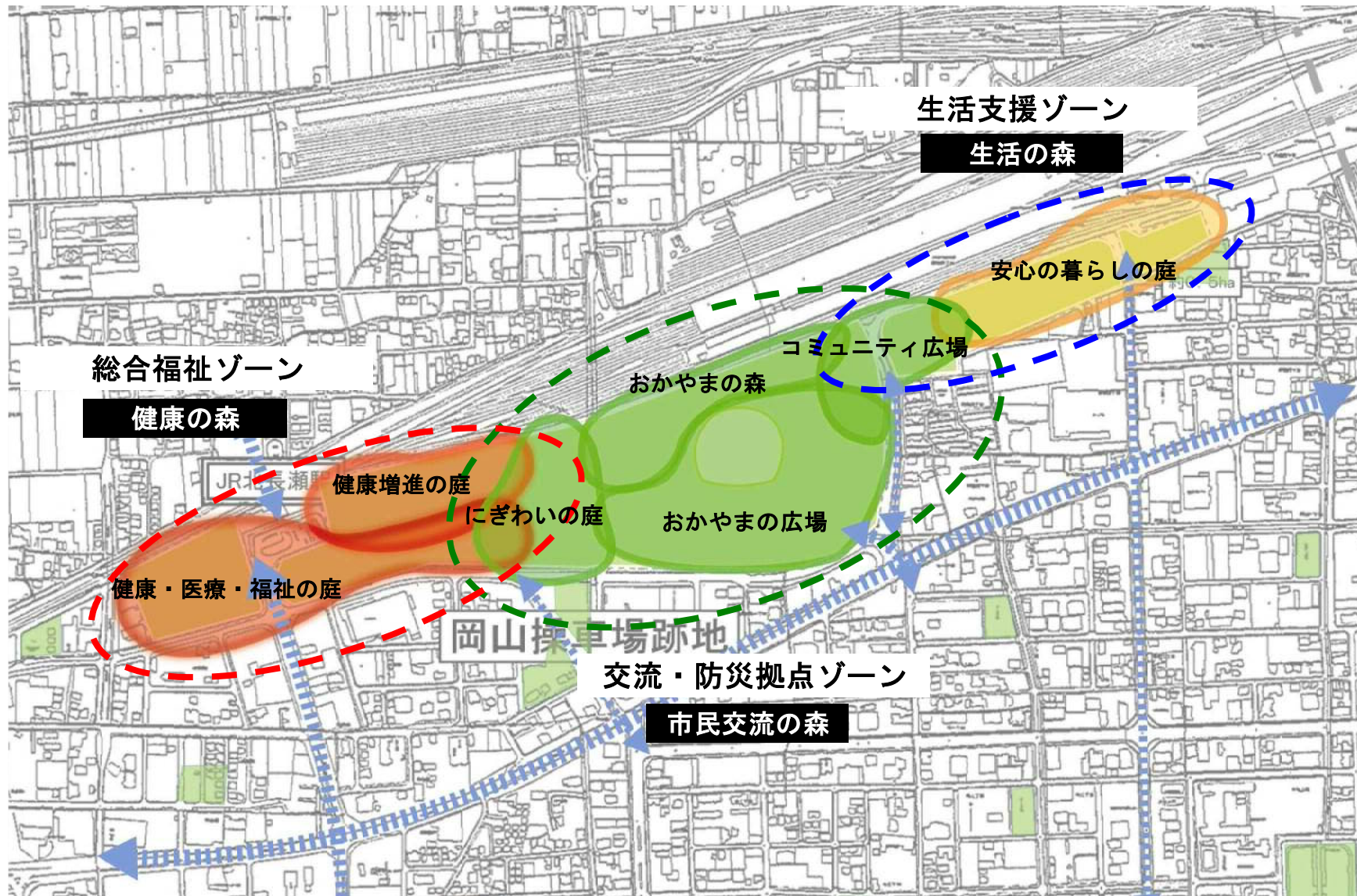
③ 生活支援ゾーン【生活の森】

子どもから高齢者まで安全安心に暮らすことができる子育て支援・高齢者支援・居住機能の導入を図る。

(エリア)

- コミュニティ広場
- 安心の暮らしの庭

(4) ゾーン及びエリア区分図



2 岡山操車場跡地整備基本計画の方針

操車場跡地全体の方針から、基本計画の方針を以下のとおり設定する。

(1) 市民のシンボルとなる水と緑の庭園都市を創造

都市の環境を支え、市民が誇りと愛着を持つ庭園都市・岡山のシンボルとなる「森」として、人々の生活環境に潤いと安らぎを与え、市民の心に留まり、愛されるランドマークとしての緑豊かな場所とする。

跡地全体が庭園都市のシンボルにふさわしく、統一感のある空間づくりを進めるため、次の考え方で緑化の枠組みを考える。

○連続的な環境をつくる緑

緑を連続的に配し、3つのゾーンをつなぐことで、一体的な空間体験を実現できる場所を創出する。鉄道敷からの視点や住環境に配慮した植栽計画を実施。

○ランドマークとしての緑

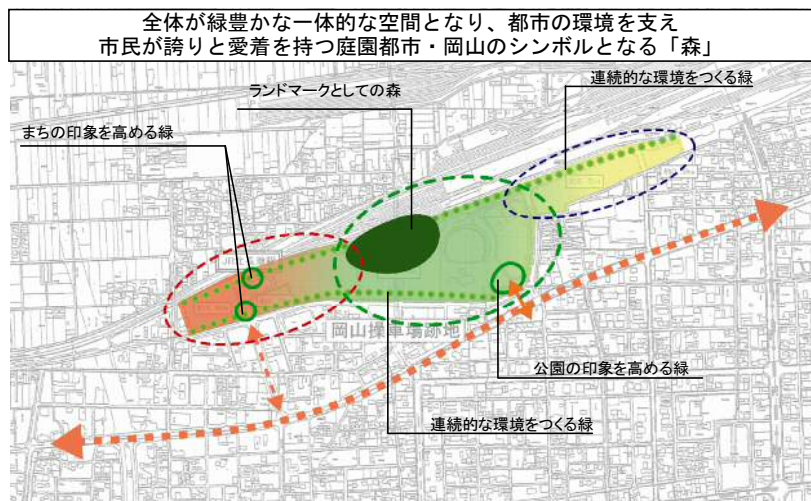
おかやまの森としてふさわしく、計画地のシンボルとなるような緑量の豊かな空間づくりをめざす。また、市民が関わりながら緑を継続的に育む。

○まちの印象を高める緑

JR北長瀬駅前において、計画地の緑のボリュームを視覚的に演出し、計画地のコンセプトである都市の森を印象づける。樹高の大きい樹種等を植栽し、アイストップとなる空間を創出する。

○公園の印象を高める緑

幹線道路からの視点に配慮すべき空間であり、公園の雰囲気凝縮した植栽計画をめざす場所。



(2) 岡山市の特長と資産を活かした各種機能・サービスの提供

社会サービスという恵みを与える「森」として、様々な恵みを与える森のように、訪れる人々や地域に「健康・医療・福祉」「交流・防災」「生活」といった視点の恵み(=サービス)を提供し、市の都市格の向上に寄与する機能が集積する場所とする。

①導入機能の整理

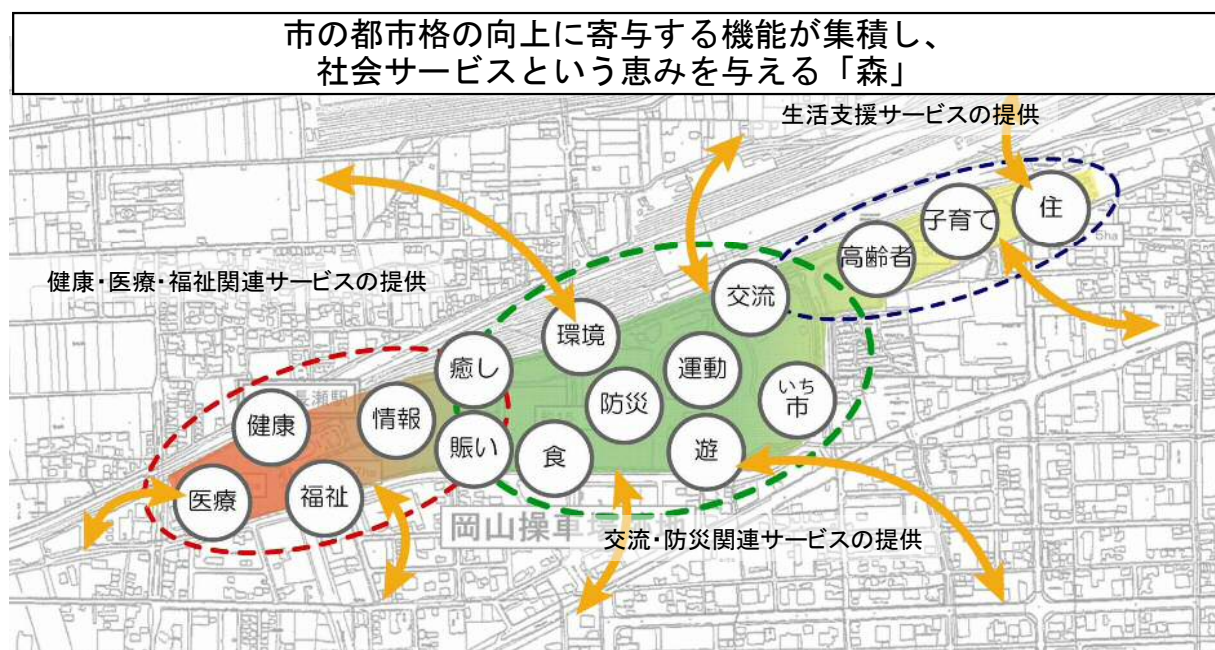
基本構想で想定した都市機能をベースに導入を進める都市機能の整理を行う。

導入機能	
医療	地域医療ネットワークの確立に貢献し、岡山ERを特徴とした医療機能や医療と連携する研究・産業機能
福祉	高齢者や障害者の健康な生活を支える相談サービス
健康	心と体の健康づくりに寄与する機能
情報	保健医療福祉全般に関する情報提供機能
賑い	日常的・非日常的なにぎわい機能、また利便性の向上を図る機能
癒し	都市の森という環境を活用し、市民が憩い安らぐための機能
食	岡山の特産品を生かした「食」をテーマとしたサービスを提供する機能
遊	子どもたちが安心して遊ぶことができ、また、市民自ら実施するイベントや大規模イベントが実施可能な機能
いち市	「健康」や「食」をテーマにした市の機能
交流	日常的に多世代が交流するための空間機能
運動	スポーツ支援を図る機能
環境	豊かな緑環境を創造しながら、市民が活用できる機能
防災	災害時に市民が安全に避難できる防災機能
住	子どもから高齢者まで安全安心に暮らすことができる居住機能
高齢者	高齢者の生活を支援する機能
子育て	安心して子育てができる支援機能
その他	駐車・駐輪機能

②ゾーン別の導入機能の整理

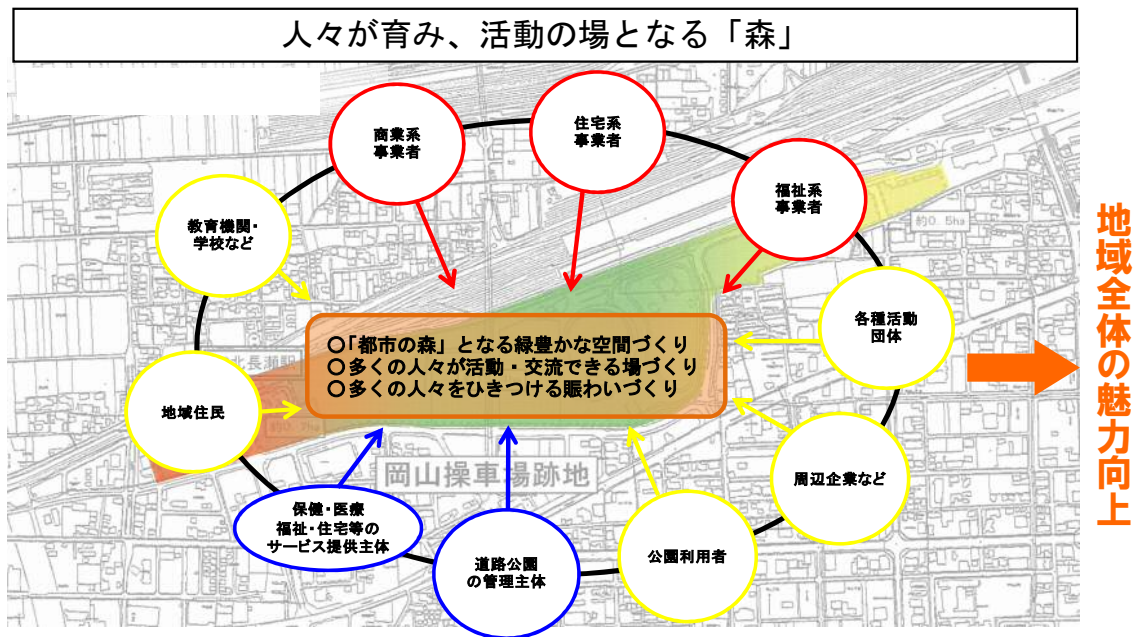
各ゾーンで提供するサービスから、ゾーン別の導入都市機能の整理を行った。

- 1) 総合福祉ゾーン 『健康・医療・福祉関連サービスの提供』
総合福祉ゾーンでは、「医療」「健康」「福祉」「情報」等の機能を中心に健康、医療、福祉関連サービスの提供を図る。
- 2) 交流・防災拠点ゾーン 『交流・防災関連サービスの提供』
交流・防災拠点ゾーンでは、「食」「環境」「防災」「遊」等の機能を中心に交流防災関連サービスの提供を図る。
- 3) 生活支援ゾーン 『生活支援サービスの提供』
生活支援ゾーンでは、「高齢者」「子育て」「住」等の機能を中心に生活支援サービスの提供を図る。



(3) 市民との協働による空間・仕組みの創出

人々が育み、活動の場となる「森」として、人々の営みの中で維持されていく里山や森のように、跡地全体のまちづくりに多くの人々が関わり、育て、そして、活動の場としても魅力ある空間が受け継がれていく場所とする。



岡山操車場跡地整備を進めるにあたっては、その立地特性に応じ、総合福祉ゾーン（健康の森）、交流・防災拠点ゾーン（市民交流の森）、生活支援ゾーン（生活の森）といった3つのゾーンを形成し、各々のテーマに沿った複数の施設やスペース及びサービスを提供するとともに、それらが相互に連携し、魅力的なプログラムを展開していく必要がある。

併せて、跡地全体を「都市の森」となる緑豊かな空間とし、多くの人々が活動・交流できる場づくりを進めていくには、事業及び管理主体である市及び民間事業者だけでなく、利用者である市民や関係団体も参加する仕組みづくりを行い、協働して跡地全体を魅力ある空間として育てていくことが求められる。